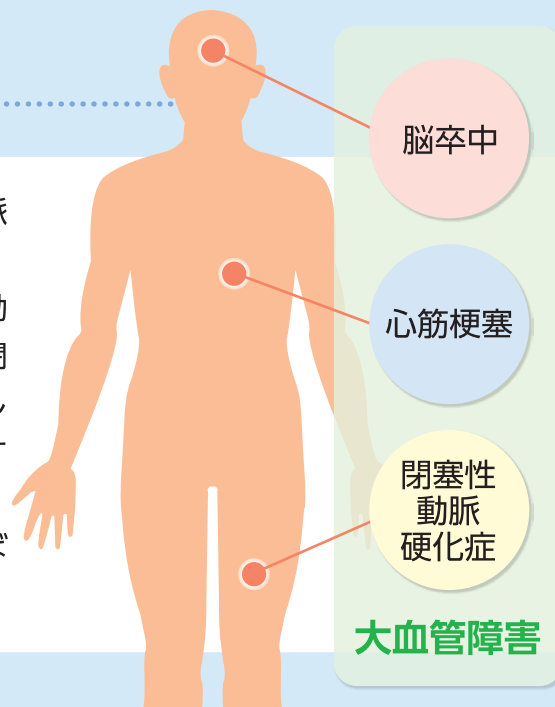


学ぼう! 糖尿病のイロハ

糖尿病の合併症 (大血管障害)

1 大血管障害とは

糖尿病は三大合併症のほかにも動脈硬化を起こすことが知られています。脳や心臓に酸素や栄養を供給する脳動脈や冠動脈が動脈硬化の進行により閉塞すると、脳卒中や心筋梗塞を起こします。また、下肢に行く血管が閉塞すると閉塞性動脈硬化症を起こします。これらはまとめて大血管障害とも呼ばれます。

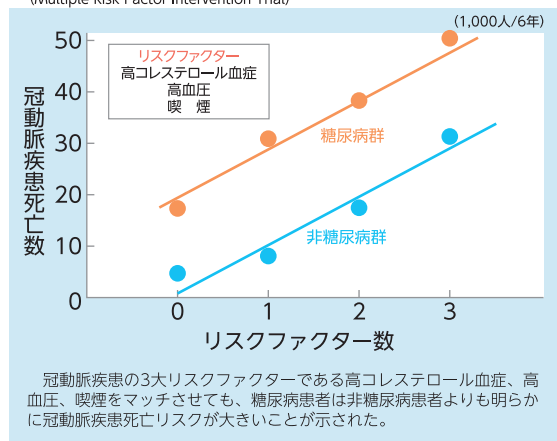


大血管障害

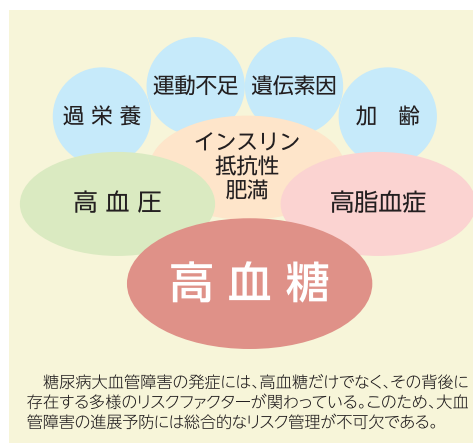
2 大血管障害の危険因子

加齢、男性、高血圧、脂質異常症、糖尿病、肥満、喫煙、家族歴があればあるほどリスクが高くなると言われていますので、それぞれ治療できるものは1つずつしっかりとコントロールしていかなければなりません。ハイリスクの対象者を早期に発見し動脈硬化性疾患を予防するため、近年メタボリックシンドロームという概念が提唱されるようになりました。

●冠動脈疾患死亡とリスクファクター
(Multiple Risk Factor Intervention Trial)



●糖尿病大血管障害のリスクファクター



メタボリックシンドローム

日本肥満学会基準 2005年

腹囲が**男性85cm**、**女性90cm**以上で下記のうち2つを有するもの

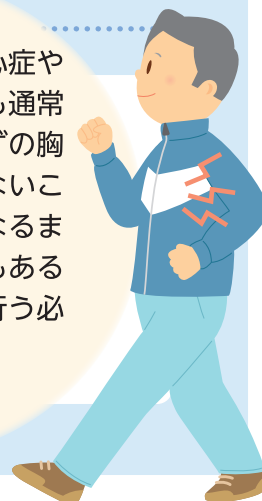
- 血圧が**130/85mmHg**以上
- 空腹時中性脂肪**150mg/dl**以上またはHDLコレステロール**40mg/dl**未満
- 空腹時血糖**110mg/dl**以上

3 大血管障害のサイン

脳梗塞に似た症状が短時間だけ出現する一過性脳虚血発作や階段の昇降などの運動により一時的に冠動脈の閉塞をきたす労作性狭心症といった脳梗塞や心筋梗塞の一步手前とも言える病態も存在するので、こうした場合に起こりうる症状を知っておき、早い段階で検査・治療を行うことが重要です。

しかし

糖尿病患者では狭心症や心筋梗塞が存在しても通常であれば自覚するはずの胸の痛みなどがわからないことも多く、心不全になるまで気付かれないこともあるため定期的な検査を行う必要があります。



4 脳卒中

脳卒中を引き起こす病気の中で糖尿病は高血圧症に次いで2番目のリスクになるといわれています。40～79歳の糖尿病患者は、

血糖値に異常がない人と比較して3倍以上脳卒中の発症率が高いと言われており、特に糖尿病と高血圧が2つともある場合はそれぞれ単体の場合よりも明らかにリスクが高くなる

とされています。さらに、最近では糖尿病が認知症の原因になりうることもわかってきています。



5 狭心症、心筋梗塞

狭心症、心筋梗塞は成人糖尿病患者の死因の第1位であり、糖尿病がない人と比べて3倍起こりやすいと言われています。糖尿病患者の心筋梗塞の特徴としては下記の4つがあります。

① 痛みのない
心筋梗塞が多い

③ 通常に比べて
余命が短い

② 通常に比べ死亡の
可能性が高い

④ 手術が困難である
ことが多い

糖尿病患者の心筋梗塞の特徴

6 閉塞性動脈硬化症

糖尿病に特徴的というわけではありませんが糖尿病患者の1割程度に起こります。最初は足がしびれたり冷たく感じたりすることから始まりますが、徐々に歩いたときの痛みが出現し、そのうち歩いていない時でも痛みが出たり、皮膚に潰瘍ができたり、といったように進行していきます。

! ただし歩いた時の痛みなどは脊柱管狭窄症などの病気でも起こるためこれらの症状全てが閉塞性動脈硬化症とはいえません。進行した病変では手術が必要になることもあります。



7 大血管障害の検査

- **脳梗塞**は頭のMRIで病変の部位や数、大きさなどが、脳出血の診断は頭のCTで出血部位、範囲が判断できます。また、頸動脈の超音波を見ることで、脳梗塞と直接関係してくる血管壁の肥厚や蛇行、狭窄などが検出できます。
- **狭心症、心筋梗塞**の診断は心電図、心臓の超音波、心臓の血管に造影剤を流す検査などに加え、最近ではCTやMRIでも診断できる施設が増えています。
- **閉塞性動脈硬化症**の診断は上下肢の血圧測定、下肢の超音波、MRIなどがあげられます。

! MRIは診断において非常に便利な検査ですが、ペースメーカーや人工関節などのような体内金属がある場合は検査ができないことがあるため注意が必要です。

